



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



酪農専攻

CONTENTS

- 1 特集1 わたしたちのプロジェクト 令和3年度卒業論文発表会
- 2 特集2 農大祭2021
- 3 専攻紹介 酪農専攻
- 4 専攻トピックス
- 5 研修紹介 農福連携支援研修
- 6 トピックス

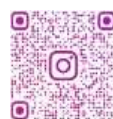
愛知県高等学校農業教育研究大会にて学生が発表
終業式、冬休みへ
一般入学一次入試を終えて
第3回進路セミナー ～私の就職・進学活動の取組～
県民公開講座で「果樹の剪定講習会」を開催

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter



特集1

令和3年度卒業論文発表会



わたしたちのプロジェクト

令和3年度卒業論文発表会

令和3年度農学科卒業論文発表会が12月16日(木)に開催されました。新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度同様に発表会場(大講義室・2年生)と教室棟教室(1年生)に分かれて、リモートで会場間を繋いで実施しました。

農学科では、2年生全員が1人1課題以上のプロジェクト活動に取り組んでおり、学生自らが実習等に取り組む中で感じた疑問点や改善点を課題として、様々な試験を行い、その結果を卒業論文としてまとめられています。卒業論文発表会はその成果を、各専攻で選ばれた2年生9名が10分間の持ち時間で発表します。

当日は、県内農業系高校の先生方もお招きし、運営は学生会1年生が行いました。

発表者は、緊張の中、いざれも専攻の代表であるという自覚と責任感を持って、素晴らしい発表を行いました。また、会場では校長等審査委員の他、各先生からも活発な質問が行われ、発表者は的確に質問に答えていました。

審査の結果、最優秀賞1名と優秀賞2名が選出されました。最優秀賞の加藤大季さんは1月に開催される東海・近畿ブロック農業大学校研究及び意見発表会に本校代表として参加します。



少し緊張気味の中、すばらしい発表をした発表者のみなさん



審査委員や会場の先生から活発な質問



表彰



学生会(1年生)が運営

各専攻の
発表者

発表者（専攻）	発表課題
加藤 大季（作物）	水稲不耕起V溝直播栽培におけるリモートセンシングの活用
山室 有里（鉢物・緑花木）	挿し木時の培土および発根剤がハイドランジアの発根に及ぼす影響
澤田 実季（酪農）	外部乳頭シール使用による乾乳期の乳房炎対策
鈴木 淳也（切花）	ヒマワリのセルトレイ栽培方法の検討
太田 拳司（施設野菜）	土耕栽培における大玉トマトの食味向上技術の確立
成松 龍政（養豚・養鶏）	鉄剤の複数回投与が肉豚の発育に及ぼす影響
國 海己（養豚・養鶏）	岡崎おうはん(親鳥)の産肉性及び鶏肉の食味性改善
太田 幸輝（果樹）	ブルーベリーのポット栽培用培土の検討
野々山 かりん（露地野菜）	被覆資材の違いがダイコンの生育、収量に及ぼす影響

審査講評

審査委員長 校長 堤 公生

各専攻代表の発表は、技術の実効性や妥当性などの実証、結果の取りまとめ、考察も全般的に良くできていました。

最優秀賞の加藤さん（作物専攻）は、最新技術を使いこなすデータの活用方法とともに導入時の経済性も検討した点が評価されました。優秀賞の鈴木さん（切花専攻）は工夫を凝らした試験を実施した点、澤田さん（酪農専攻）は得た成果を将来ヘルパーとして現場で役立てたいと言う意志が際立っていました。他の発表もそれぞれに特徴があり、専攻代表として入賞した発表と比較して甲乙付けがたい内容でした。

本年度の卒業論文発表は専攻学習で得た技術的なテーマがほとんどでした。これら技術に関する効果や効率などの評価は重要な問題解決であり、さらには農業現場での実用性や消費者評価などマーケティングの発想を加えて、今後1年生へと引き継がれていくことを期待しています。

卒業論文研究及び発表は、科学的なものを見る目や、観察力、論理的な思考による「問題解決能力」を身につける、農大での実践学習の総仕上げです。2年生の皆さんは、卒業論文で得た「問題解決能力」と卒業論文をキッチリとやり終えたことで得た「自信」を武器にして、卒後の仕事や勉学に活かしてください。

最優秀賞 加藤 大季（作物専攻）

課題名「水稲不耕起V溝直播栽培におけるリモートセンシングの活用」



省力技術として本県で普及拡大している水稲の「不耕起V溝直播栽培」は生育のばらつきが大きいという課題がある。この問題を解決するため、ほ場の生育状況を把握できるリモートセンシングを活用した可変追肥を検討した。可変追肥技術を導入するため、本課題ではリモートセンシング(生育状況)値と施肥量の違いによる生育の関係性を検証し、可変追肥を行う際の施肥指標作成を行う。

○ 実施方法

慣行区、基肥を増やした区(増肥区)、追肥(7月28日)を行った区(追肥区)の3区を設置(品種「あいちのかおり」)。各区の生育・収量調査と追肥前の各区ほ場のリモートセンシングを実施。

○ 結果及び考察

草丈、茎数は追肥前は増肥区が高かったが、追肥後は追肥区が増肥区と同等もしくはそれ以上となった。収量・品質調査では増肥区・追肥区が穂数・一穂粒数が高くなり、精玄米重も高くなった。しかし、増肥区は稈長が長くなり倒伏も見られた。

リモートセンシング結果では、増肥区が他2区より高くなり、特に倒伏が見られた箇所では高い値を示した。

以上の結果から、生育及び倒伏を防ぐための追肥量とリモートセンシング値を明らかにし、その関係性を示す指標を作成した



■ 可変追肥の指標

NVDI	NVDI×植被率	生育診断
0.62以下	0.32以下	追肥による増収が見込まれる
0.65以上	0.34以上	倒伏の危険性がある
0.75以上	0.39以上	倒伏が確実

■ 試験区

(kgN/10a)

	基肥	追肥
慣行区	8	0
増肥区	12	0
追肥区	8	2

優秀賞 鈴木 淳也 (切花専攻)

課題名「ヒマワリのセルトレイ栽培方法の検討」

ヒマワリの根域を制限することで草丈の伸びすぎなどを防止する「セルトレイ栽培」で水切れ対策としてパーミキュライトの底面敷設及びしおれ防止のため亜リン酸肥料施用効果を検討した。併せてセルトレイ栽培に最適な追肥の施肥時期と施肥濃度を検討した。



○ 実施方法

品種:ヒマワリ「ピンセントオレンジ」
 (試験1)パーミキュライト敷設及び亜リン酸肥料の施肥の有無による生育等の影響

(試験2)液肥の灌注時期と濃度が生育等に及ぼす影響

○ 結果及び考察

(試験1)パーミキュライト底面敷設により切花長が長くなり、切花重が重くなった。亜リン酸肥料の施用は生育・開花に影響を及ぼさなかったが茎が固くなった。

(試験2)追肥の施肥開始時期が早いほうが切花長は長くなり、追肥の施肥濃度が濃いほうが花径は大きくなった。

以上の結果により、ヒマワリのセルトレイ栽培では、①パーミキュライト底面敷設により保水力・肥力が高まり根域を広げられ生育が良くなる、②亜リン酸肥料施用により茎が固くなる、③追肥の開始時期が早いとボリュームのある切花を採花できることがわかった。

■ 試験1

試験区	パーミキュライト	亜リン酸肥料
A区	なし	なし
B区	あり	なし
C区	なし	あり
D区	あり	あり

■ 試験2

試験区	施肥開始時期	施肥濃度
①	播種後0週間目	50ppm
②	播種後0週間目	100ppm
③	播種後2週間目	50ppm
④	播種後2週間目	100ppm
⑤	播種後4週間目	50ppm
⑥	播種後4週間目	100ppm



優秀賞 澤田 実季 (酪農専攻)

課題名「外部乳頭シール使用による乾乳期の乳房炎対策」

酪農家にとって大きな課題である乳房炎を防ぐため、外部乳頭シール(商品名:ティートナー)を使用して乳房炎の対策効果について検証した。

○ 実施方法

乾乳用軟膏注入後、乳頭にティートナーを貼り、脱落するまでの日数及び脱落順を調査する。分娩予定日2週間前に再度ティートナーを貼り、分娩するまでティートナーがついている状態にした。生乳出荷が可能になる分娩後6日目の朝にサンプルを採取し体細胞数を検査(PLテスト)した。

○ 結果及び考察

初乳のPLテストでは、乾乳後のティートナーが脱落した順に反応が大きくなった。分娩後6日目の体細胞数と乳成分を産次数が同じ試験牛と対照牛で比較したところ試験牛の方が低い傾向にあった。初乳のPLテストでは乾乳後のティートナーが脱落した乳頭から乳房炎を発症し、より重度の乳房炎に罹患していた。

以上の結果から、分娩後6日目の朝の体細胞数は試験牛の方が低い傾向にあったためティートナーは乳房炎を防ぎ、生乳出荷時の体細胞数増加を防ぐのに効果的であることがわかった。

■ 供試牛

分娩予定日が令和3年7月31日から令和3年10月14日のホルスタイン種5頭

	番号	生年月日	産歴	乾乳日	分娩日
試験牛	1	H29.7.16	3産	R3.5.25	R3.7.20
	2	H30.1.27	2産	R3.5.28	R3.8.17
	3	43684	初産	なし	R3.9.9
対照牛	1	H30.7.15	2産	R3.8.27	R3.10.15
	2	R1.7.6	初産	なし	R3.9.5

■ 分娩後6日目の体細胞数

	番号	体細胞数 (万個/ml)
試験牛	1	21
	2	17
	3	34
対照牛	1	31
	2	174





12月4日(土)午前9時から正午まで「農大祭2021」を開催しました。今年も新型コロナウイルス感染症対策のため食品バザー等の飲食を伴う催事は実施できませんでしたが、農産物の販売を中心に開催することができました。

受付開始とともに、多くの来場者が見えになり、約1400名の方にご来場いただきました。

今年も体育館は鉢物・緑花木専攻のシクラメンやシンビジウム等で埋め尽くされ、テントブースでは、切花専攻の洋花セット、露地野菜専攻のハクサイ、キャベツ、焼き芋、果樹専攻のジャム類、作物専攻の米や餅、養豚養鶏専攻の卵、プリン、手作りのわら細工などを買い求めるお客さんがたくさん並んでいました。また、各専攻の農畜産物のお得セットも初めて販売しました。後援会のブースでは、学生の保護者が収穫した野菜や果物などを、隣のブースでは岡崎市など協賛団体等が農産物や加工品、お菓子などを販売し大好評でした。

中央教育棟では、茶道部の茶道具展示や各専攻の紹介パネル、成果などを展示しました。また、11時から教室棟南で軽音楽部がライブ演奏し、学生も集まって盛り上がりました。

2回行われたキャンパスツアーは66名の参加があり盛況でした。

新型コロナウイルス感染症の影響で、さまざまな行事が中止される中、学生たちも元気になる場ができ、盛り上がる事ができました。ご来場いただいた皆さま、ご協力いただいた関係者の皆さまに感謝いたします。

ありがとうございました。



農大祭 2021 会場図



1 おしゃれなポップで販売
(切花専攻)



お得セットを初販売



2 特製のジャム売っているよ〜
(果樹専攻)



3 農大産トマトを説明してます
(施設野菜専攻)



4 もち米で作った切り餅は最高！
(作物専攻)



5 手作りわら細工いかがですか
(養豚養鶏専攻)



5 ぎんなん買って～
(酪農専攻)



6 おいしい焼き芋だよ
(露地野菜専攻)



6 新鮮野菜、たくさん買ってね
(露地野菜専攻)



7 体育館は鉢物がいっぱい
(鉢物・緑花木専攻)



8 養豚養鶏専攻は
おそろいのトレーナー



9 後援会は大盛況でした



9 協賛団体のみなさん
ありがとうございます



10 茶道具展示です(茶道部)
専攻の紹介パネル



11 堆肥販売。受付です
(酪農・養豚養鶏専攻)



12 キャンパスツアーは大盛況



13 みんな楽しんでくれました♪
(軽音楽部)



みなさん、おつかれさまでした
学生会



終了後に農大の空にきれいな虹が…

専攻紹介

酪農専攻

酪農専攻では、搾乳牛 25 頭、育成牛 30 頭、肥育牛 20 頭、和牛 5 頭を飼養しています。学生 1、2 年合わせて 26 名が授業内や当番で管理作業を行っています。毎日作業を行う必要があるため大変ですが、その分真剣に、楽しく取り組んでいます。

昨年度に、搾乳牛を飼養しているフリーストールの床や、糞を集めるスクレーパーを新しくするなど、牛が過ごしやすくかつ作業が行いやすい環境づくりに取り組んでいます。



農大の牛乳が出荷されるまで



牛との生活

牛の管理作業は、搾乳の他にも、牛の餌づくり、給餌、子牛の哺乳、糞の処理など多岐にわたります。加えて、分娩があれば昼夜を問わず対応することもあります。



餌寄せ



放牧



哺乳

牛ってかわいい！



トラクターの運転
糞を運びます



育成牛への給餌



ジャージー牛もいます



子牛の身体測定



生まれたばかりの子牛
羊水を拭き取ります

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

各専攻の様子は、農大のInstagram、ツイッターで情報発信しています。



11月30日に露地野菜専攻と合同で静岡県の袋井市にある「名倉メロン」に視察に行きました。名倉メロンでは6次産業化に力を入れており、農場内で採れたメロンを使ったパフェなどを味わえるカフェを運営しています。カフェではカットメロンを試食し、学生からは「とても甘く、後味がすっきりしている」などの感想が聞かれました。静岡県で特有のスリークウオーターハウスの見学も行い、県外の特徴的なメロン栽培について学ぶことができました。

静岡県のメロン農家を視察しました！



11月30日に施設野菜専攻と合同で静岡県の（株）おやさいを訪問し、葉ネギほ場と葉ネギ調整出荷施設を見学させて頂きました。杉山社長さんから、農業参入から現在に至るまでの経緯と、葉ネギの栽培や販売戦略などについてお話を聞くことができ、学生にとつて有意義な研修になりました。社長さんはM&Aも活用し、現在青果卸会社など農業関係6社を運営しているそうで、凄い方でした！

静岡県の（株）おやさいを訪問



作物専攻では12月6日に五平餅作りを行いました。味噌やお米は農大産を使用し、200本作成しました。学生や職員、研修生に販売し、完売することができました。「味噌がおいしい」「ポリウムがぁりおなか一杯になる」といった声も聞かれ、作った学生たちは大満足でした。本来であれば農大祭で販売するところ、コロナの影響で販売ができませんが、おいしく作ることでよかったです。

美味しい五平餅作り!!



農大祭の今年の新たな取り組みとして、販売ブース横で晩生の日本ナシ品種「愛宕」の重量あてクイズを行い、多くのお客様が参加されました。重さを明示したサンプルの梨を持ってもらった上で、ビッグサイズの愛宕梨を持ってもらい、その重さを投票用紙に書いて頂きました。結果発表時には多くのお客様が訪れ、見事正解された方にはビッグサイズの愛宕梨をプレゼントしました♪学生からも、「お客様に楽しんでもらえたから来年もやりたい」との前向きな声が上がりました。

農大祭で販売大盛況！
愛宕梨の重量あてクイズが人気♪





ラメ切花職人の誕生！

先月号で、校外学習で実習販売向け新商品のアイデアを得た、とお伝えしましたが、その後、アイデアを基に試行錯誤し、切花をラメパウダーで飾る方法を編み出しました。光に当たるとキラキラ輝きます。

作業自体は切花に糊を塗ってラメを振りかけるだけですが、糊の濃度や塗り方を工夫し、ムラのないようにラメを振りかける学生の姿は、まるで職人のよう。曰く、「クリスマス向けに華やかさを出しつつ、くどくならないように」とのこと。

先日の農大祭で新商品としてお披露目した際は、用意した約40束が見事完売しました。大成功です！！



盆栽技術を学ぶ

日本の園芸業界における世界的スター「盆栽」の作り方、管理の仕方を学びました。盆栽は自然の風景を小さな鉢の中に表現する芸術です。今は海外でも人気があり「BONSAI」という言葉で通じるそうですよ。和の雰囲気はこれからのお正月の飾りつけにもぴったりで。今回は白梅や苔、装飾用の石などを使った盆栽づくりに挑戦しました。同じ材料でも人によりできる作品は様々。これからの月日がさらに魅力的な芸術作品に磨き上げてくれることと思います。



小笠原牧場 & 北村牧場を

見学しました

11月30日、2年生が西尾市の小笠原牧場、北村牧場へ校外学習に行ってきました。大規模経営や循環型酪農、6次産業化など、これから酪農経営を行う際に考えるべきことをたくさん学んできました。また、最後にはチーズづくりを体験しました。さけるチーズは新鮮でとても美味しかったです。慌ただししい1日でしたが、学生にとっては貴重な経験になりました。



豚熱と飼養衛生管理 基準の講義を

聴きました

11月26日、中央家畜保健衛生所の鬼頭技師を講師としてお招きし、豚熱の発生状況、豚熱ワクチン、飼養衛生管理基準などについて1年生、2年生に講義をしていただきました。最近、豊田市で豚熱陽性のイノシシが確認されるなど発生リスクが高まっている状況なので、学生たちは緊張感を持って講義を聴いていました。



初生ひなの雌雄鑑別 について学びました

11月30日に中部初生鑑別師会から鑑別師の方を講師としてお招きして、初生ひなの雌雄鑑別技術、鑑別師の業務と養成体制及び鑑別師を取り巻く情勢等について教えて頂きました。また、実際にひなを使い、肛門鑑別及び羽装鑑別に挑戦し、雌雄鑑別技術について知識を深めることができました。



研修紹介

農 福 連 携 支 援 研 修

農福連携支援研修は、野菜栽培の基礎知識を福祉事業所職員の皆さんが学び、施設利用者さんへの解りやすい伝え方などを習得し、福祉関係施設の栽培ほ場が運営できることを目的とした研修です。

令和2年度から始まり、今年度は2年目の研修です。6月下旬からスタートし、翌年1月下旬までの8か月間にわたり27日行っています。



当研修では、実習と講義及び先進的な農福連携施設への視察を行います。

実習では、野菜栽培ほ場においてキュウリ、ピーマン、ナス、白ウリ、スイカなどの春夏野菜やハクサイ、ダイコン、ニンジン、チンゲンサイなどの秋冬野菜の栽培を体験しました。研修生は播種、間引き、追肥、整枝、誘引などの栽培管理や収穫、調整から片づけまで一連の栽培管理を行いました。



講義では、野菜作りに関する基礎知識（肥料、病害虫、土づくり、雑草防除）だけでなく、わかりやすく教える工夫、アグリジョブコーチ概論など農福連携に関することも学びました。

また、施設の畑の土を各自持ち寄り、土壌分析を行う体験もしました。



施設での業務がお忙しい皆さんがこの長期研修を受講されるのは、大変なことと思いますが、頑張って継続受講していただいています。

今年度は、研修を円滑に進めるためLINEで情報交換をすることにしました。

研修生の皆さんからの言葉（一部抜粋）

（Nさん）

自分達がこれからやる農業についての貴重な体験が出来、満足しています。

特に自分達の育てる野菜の成長を実感する喜びと一緒に学び同じ道を行く仲間ができた事です。本当にありがとうございます。

（Mさん）

先生方がとても親切に、詳しく教えて下さり、毎回とても楽しく参加することができました。

福祉という同じ職業の人たちと、農業以外の話もできたのはすごく良かったですし、何より先生方がとても気さくで、楽しくて。。。とにかい毎週学校に来るのが楽しみでした!(^^)!

（Yさん）

いつも楽しく参加させていただいています。野菜の育て方、方法を学ぶことができています。道具の利用方法など新しい発見ができ、収穫など体験出来て農業の楽しさを感じています。また、除草の大切さや、虫や鳥の被害、暑さや寒さの中での作業など収穫までの大変さを学びました。

学んだことを生かして、まずは野菜作りから始めていきたいと思っています。

なお、研修生の皆さんは、農業体験において、まったくの方から自宅が農家という方もある中でしたが、和気あいあいと、しかも常に前向きに研修に取り組んでいました。また、研修では、新たに農業を始めようとする方たちの農業者育成支援研修の皆さんと積極的にコミュニケーションをとることができたようです。

また、真剣な中にも、いつも笑いが絶えない様子で、楽しく研修に臨んでいただいています。



トピックス

愛知県高等学校農業教育研究大会にて学生が発表

11月29日（月）、本校の意見発表会で最優秀賞に輝いた酪農専攻（1年生）小池創太さんが愛知県高等学校農業教育研究大会で酪農家を目指す自身の経験と夢を披露しました。県教育委員会、各校の校長先生、先生方をはじめ110名の前で発表できたことは、大変貴重な経験となりました。小池さんは、猿投農林高校の出身で、出席された恩師の先生からも立派な発表だと評価いただきました。また、発表後は、多くの先生方から東海・近畿ブロック発表会予選会に向けた激励の言葉を頂くことができました。



緊張の中、発表する小池さん

終業式、冬休みへ

12月17日（金）終業式が行われました。今回も新型コロナウイルス感染症対策のため、2年生は大講義室、1年生は第1・第2教室に分かれての開催となりました。

堤校長からは、農大で培った行動力、団結力、やる気を今後活かすとともに、この冬休みは、今後の自分を見つめ直す期間にして欲しいとの講話がありました。

終業後、学生は3週間の年末年始休みに入りました。1月7日からまた学校が始まりますが、2年生にとっては農大での学生生活最後の2か月になります。



大講義室で校長講話を聴く2年生

一般入学一次試験を終えて

令和3年12月21日（月）、一般入学一次試験の合格発表を行い、36名が合格しました。推薦入学試験の合格者45名と合わせ、81名（昨年87名）の合格となりました。（男性53名、女性28名）

合格者の内訳は県内農業関係高等学校が34名（昨年56名）です。

なお、本年度は、「園芸課程 鉢物・緑花木専攻、切花専攻」、「畜産課程 養豚・養鶏専攻」で一般入学二次試験を実施します。詳しくは、本校ホームページをご覧ください。

第3回進路セミナー ～私の就職・進学活動の取組～

12月8日(水)1年生を対象に第3回進路セミナーを開催しました。

第1部は「私の就職・進学活動の取組」と題して、雇用就農・就職・進学予定の2年生6人が自らの進路の取組み・体験談を発表しました。その後、6人の学生が予め提出された1年生からの質問に答える形式で進めました。「いつから就活を始めるべきか」、「どんな資格を取っておくべきか」など多くの質問に対し、担当した2年生は丁寧に回答し、1年生も体験談を真剣に聞いていました。

第2部は「農業法人が求める新入社員の資質と能力」と題して、阿久比町を中心に米・野菜や米加工品等の生産・販売を展開している有限会社千姓の代表取締役、都築興治さんに御講演いただきました。都築さんは、「令和3年度愛知農業賞（あいちアグリアワード）」の農業・農村振興部門を受賞した直後で、タイムリーな企画でした。講演の終盤には本校卒業生を含む従業員の生の声を動画で紹介していただくなど、受講した1年生にとって大変有意義な機会でした。



6人の2年生が体験談発表



(有)千姓の都築代表の講演と卒業生の動画

県民公開講座で「果樹の剪定講習会」を開催

12月6日(月)「家庭果樹の剪定に必要な知識の習得」をテーマに、県民の皆様を対象とした県民公開講座を開催しました。70名を越える応募の中、抽選の結果50名が参加され、講師は元本校職員でJAあいち経済連の技術主管 都築壽男先生をお招きしました。

当日は小雨の降る中、現場での模範実技では、参加者の皆さんが雨具をつけて熱心にカキの剪定ポイントやコツを学びました。

現場やその後の講義では参加者の皆さんから多くの質問がされ、参加した皆さんの真剣さや熱意が感じられました。



雨の中で模範実技をする都築講師